# 今、しまねのキャリア教育は・・・？

平成２５年度の「キャリア教育に関する意識調査」（島根県教育センター浜田教育センター）からは、次のような実態が見えてきました。自校の実態と照らし合わせながら見てみましょう。

※数値は「当てはまる」と回答した割合

児童生徒の実態　教職員の指導に関すること

## 人とのかかわりに関すること

他者との関係を築こうとする意欲や、場に応じて話そうとする意識は高い傾向にあります。一方で、相手に自分の気持ちをしっかりと伝えたり、行動に移したりしようとする力が弱いことがうかがえます。

他者との関係を築かせるための教職員の支援は意識的に行われています。
児童生徒の意欲も高まっているため、自分の思いを言葉にしたり行動に移したりできるような力を育てる指導・支援の工夫改善が望まれます。

＜人とのかかわりについて、小学校の児童と教職員の意識は次のような結果でした。＞
児　童・「みんなと仲良くしようとしている」７２．５％
　「相手がわかりやすいように意識しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしている」３６．０％
教職員・「思っている友達を助けたり頑張っている人を応援しようとしたりする気持ちを育てることを意識して指導している」　６３．８％
　「相手が理解しやすいように、自分の考えや気持ちを伝えることを意識して指導している」４３．７％

## ふるさとのよさに関すること

ふるさとの「ひと・もの・こと」に触れる機会が多い環境にありますが、ふるさとのよさを感じ取り、他者に伝えられるまでには育っていない傾向があります。

ふるさとの「ひと・もの・こと」に触れた体験したりする学習をより深め、主体的な体験から何を感じ取らせたいのかを明確にした指導・支援の工夫改善が望まれます。

＜今住んでいる地域について、高等学校の生徒の意識は次のような結果でした。＞
生徒・「今住んでいる地域の行事に積極的に参加している」８．６％
　「今住んでいる地域の自然や文化などのよさについて毎回友人に話すことができる」９．８％

## 自分自身に関すること

「人のために役に立っていると感じる」と答えた児童生徒が少なく、自己有用感が低い傾向があります。

「将来、世のやふるさとの役に立ちたい」という意識を育てる指導とも関連させながら、児童生徒の自己有用感を高める指導・支援の工夫改善が望まれます。

「将来に対する夢や目標を抱いている」と答える児童生徒は少なくありません。その一方で、具体的に実現していこうとする力（生活や学習の目標設定、計画と実行、柔軟に取り組んだりねばり強く取り組んだりすることなど）が弱い傾向にあります。

児童生徒が抱いている夢や目標の実現を図るための指導・支援の工夫改善が必要です。特に、課題に対して柔軟に、ねばり強く取り組む姿勢を、発達に応じて段階的に育てることが望まれます。

＜夢や目標に対する全校種の児童生徒の意識は次のような結果でした。＞
「将来の夢や目標がありますか」小学校７０．１％　中学校４９．３％　高等学校３７．４％
「将来やってみたい仕事がありますか」小学校７０．９％　中学校５２．９％　高等学校４２．５％

## キャリア教育の計画に関すること

全体計画は約９割の学校が作成していますが、教科等との関連を明確にした年間指導計画や、評価を配慮した計画を作成している学校はきわめて少ないことが分かりました。

計画、実施した取組を評価し、改善につなげるサイクルを確立すること、特に、評価については共通理解が大切です。

＜育成する能力や態度の到達目標に応じた評価計画の記載がありますか＞




**実践例　【めざす子ども像と重点目標、重点内容を掲げた取組：雲南市立阿用小学校】**

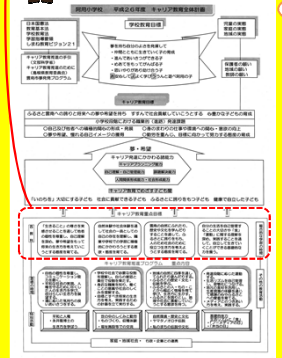
めざす子ども像と重点目標
① 「いのちを大切にする子ども」・・・「生きること」の尊さを実感させることを通して他者の個性を尊重し、自己理解を深め、夢や希望をもって将来の生き方を考えていこうとする態度を育てる。
② 「社会に貢献できる子ども」・・・自然体験や社会体験を通して社会の一員としての自己の存在を理解し、職業や学校での学習に積極的にかかわろうとする意欲・態度を育てる。
③ 「ふるさとに誇りをもつ子ども」・・・雲南の自然に触れたり、歴史や文化を学んだりすることを通して、ふるさとに誇りをもち、人のために、社会のために役立つ生き方を考えようとする態度を育てる。
④ 「健康で自立した子ども」・・・自分の生活を自己管理することの大切さや「食」「運動」に関する理解を深め、実践することを通して、自立して生きていくことができる基礎的な力を養う。

目指す子ども像は、最終学年までを見通して、抽象的な表現ではなく、子どもの姿を思い浮かべて設定すると良いですね。そして、目指す子ども像と指導の重点を明確にし、実践を進めることが大切です。

「めざす子ども像と重点目標」の達成に向けて、各学年で取り組みます。

③ふるさとに誇りをもつ子ども

実践



【２年町たんけん】「社会古墳見学」

【２年町たんけん】「温泉神社　大岩見学」

【３年ヤマタノオロチ伝説】

【３・４年雲南市めぐり】

【１・２年巻きずくり】

【４年地域に貢献した人々】

「キャリア教育」を進めるに当たって、ぜひ一度、国や県などから出ている資料を参考にしましょう。

＜キャリア教育を進めるに当たって参考となる資料＞
○小・中・高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）
○キャリア教育を「デザイン」する―小・中・高等学校における年間指導計画作成のために―（国立教育政策研究所）

この他に、文部科学省ウェブサイト「キャリア教育（進路指導）」のページから各種資料をダウンロードすることもできます。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm


編集・発行／島根県教育センター浜田教育センター　研究・研修スタッフ、教育相談スタッフ
〒697-0023 島根県浜田市長沢町1550-1　TEL(0855)23-6782　FAX (0855)23-5059


平成25～26年度
島根県のキャリア教育推進に関する一研究

# RPDCAですすめる！キャリア教育

## ～自校の実態に応じた推進のために～

キャリア教育を、始めたい、進めたい、改善したい！
でも、何からやっていいかわからない・・・

このリーフレットの
評価項目やＲＰＤＣＡサイクルのすすめ方を活用して
自校の実態に応じたキャリア教育を推進していきましょう！


平成27年3月
島根県教育センター浜田教育センター　共同研究


## 「RPDCA※ですすめる！キャリア教育」について

キャリア教育は、中央教育審議会答申（平成２３年１月）において「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」として定義されています。島根県教育センター浜田教育センターでは、各校種が連携し、子どもの将来像をイメージしながら、必要な力を教職員が共有して育てていくことをキャリア教育の方向性と捉え、キャリア教育の推進にあたり、学校現場での実践を想定した提言に向けて研究を進めてきました。

平成２５年度に島根県内の学校現場におけるキャリア教育に関わる取組の状況や、教職員のキャリア教育に対する意識の実態調査を行い、各校種の取組と『第２期しまね教育ビジョン２１』（島根県教育委員会　平成２６年７月）をもとに、キャリア教育で培いたい資質や能力、態度等について、「しまねの子どもに育てたいカと評価項目」としてまとめました。また、実態を踏まえて「育てたいカ」を焦点化・重点化し、「目指す子ども像」を具体的に示すことと、ねらいに即した評価を生かし、改善を図っていくことが重要であると考えました。

島根県のキャリア教育が統一感をもって推進されるために、RPDCAサイクルが機能したキャリア教育推進の在り方を研究し、このリーフレットにまとめています。

「しまねの子どもに育てたい力と評価項目」に示す資質や能力、態度等は例示です。RPDCAサイクルにおける県内の実践例も紹介しています。本県にうかがえる課題に対応させ、できるだけわかりやすい内容にしていますが、取り上げた内容以外の課題に直面することもあると思います。不十分な点は各学校において補っていただきますようお願いします。本リーフレットが各学校や先生方のお役に立ち、本県のキャリア教育の推進につながることを期待しています。

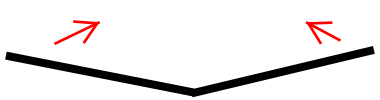
※ R：実態把握（Research）　P：計画（Plan）　D：実践（Do）　C：評価（Check）　A：改善（Action）

第２期　しまね教育ビジョン２１　より

**両面(短編綴じ）で印刷し、上の図を参考に張り合わせます。**
**折るときには、上の図が外側になります。**

# 折るときには、内側になります。

①両端を内側に向かって折ります



②真ん中を内側に向かって折ります